

本庄陸男 100 年を偲ぶ

(7月16日～18日)

広報誌で紹介した写真またはデータをご希望者に提供します。

●お申し込み●

秘書課広報広聴係 ☎ 23-3069 へ

本町出身で小説「石狩川」の作者、本庄陸男の生誕百年を記念するイベントが町観光協会の主催で西当別コミュニティセンターを中心に開かれ町内外から2,500人が訪れました。

初日には、本庄氏がピト工在任時代に小学校で同級生だった大西孝二さん(江別市)や、甥の本庄覚さん(帯広市)なども出席し会場前でテープカットが行われました。

2日目は文学碑前で行われた献花式後に西当中合唱部の合唱やふとみ元風会のヨサコイなどが披露、夜には小説家吉村昭さんの文化講演会「史実と歴史小説」も開かれ、多くの町民が本庄氏の偉業を偲びました。



吉村昭さん文化講演会



駅前にふくろう案内板がお目見え

(7月9日)



町の鳥「ふくろう」をデザインした観光案内板が、当別駅前広場に設置されました。駅前広場の完成に伴って町観光協会が作成したもので、町内16団体の協賛金と町補助金など合わせ総工費3,874,500円で完成しました。FRP(強化プラスチック)製で全長320cm幅256cm、町内の名所が写真入りで案内されています。夜間には照明も灯ります。町のシンボルとなるように皆さん温かく見守ってください。

ふくろう隊が創作民話を公演

(6月26日)

毎年文化公演活動を行っている当別ふくろう隊(武田龍太郎隊長)が、10周年記念公演「とうべつ創作民話～落語と朗読の世界～」を大成寺会館で開催し、100人の観客が楽しみました。

今回清水三喜雄さん(みどり野)が執筆した創作民話「龍棲む村に亜麻が咲く」が、女優の青坂章子さんの抑揚の効いた朗読と、三遊亭圓窓さんの江戸小話に結びつけた落語で語られ、観客も笑いの中からいつしか舞台に引き付けられていました。



高校生が町内で職業体験

(7月12日)

当別高校が就業体験を通して職業観を身につけてもらおうと行われたインターンシップ事業に、3年生56人が参加、町内の商店・事業所15カ所で職業体験をしました。

生徒は、研修先で開店前の準備や接客、仕事の仕方などを学びました。

「開店前の準備の大変さや、仕事をするこの難しさがわかった」と話す参加した高校生は、ビジネスマナーなどを体験し、これからの職業選択に生かします。



☞ 十字屋書店



☞ 安藤石油販売

町商工会が主催する「SUNキューフェスティバル」が白樺公園とまちの駅「アウル」で開かれ、小雨の中約2,000人の町民でにぎわいました。



ヨサコイを見ようと集まった観衆に、ふとみ元風会をはじめ近郊から集まった8チームが元気いっばいの踊りを披露、祭りを盛り上げました。

例年行われている、園児の綱引き大会（優勝・当別幼稚園Bチーム）や3人一組の丸太切り（優勝・当中職員チーム）の白熱戦にも大きな声援が送られました。

切花即売会、フリーマーケット、飲食コーナーも好評で多くの町民が品定めをしながら、楽しみました。

SUNキューフェスティバルでハッスル
(7月11日)

コンサドーレを応援

(7月17~18日)

「コンサドーレ札幌」の応援ソングのビデオ撮影が2日間にわたり町内で行われました。

「当別21 夢倶楽部フィルムコミッション」を通じて依頼されたもので、当別中学校3年生の女子が主役を務めたほか、同校生徒や町民20人以上が高校生役などでエキストラ出演しました。夏空の下、当別駅前、当別中学校前など町内7カ所で撮影されたビデオは、コンサドーレの試合時にスクリーンに映される予定です。



町民に健康について考えてもらおうと町が昨年引き続き「ゆとろ」で開催した「健康なまちづくり研修会」に主婦など50人が参加しました。

江別保健所の澤口多恵美さんから、地域に根ざした質の良い食材を使ってその土地の伝統料理を大切に食文化を見直すことが健康づくりにつながっていくと「スローフード」についての説明がありました。

また、町の大倉管理栄養士が町民の食習慣や食量、栄養摂取量など食生活実態を、グラフを使いわかりやすく説明しました。

その後のグループワークでは、各家庭での食生活の様子や普段から食に気をつけていることなどを出し合いながら、これからの健康づくりに大切なことを話し合いました。



健康なまちづくり研修会
(6月27日)